

JAMCA ジヤムカ ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.57

2008年4月1日

発行 協会事務局 全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31
ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>



学生にもっと車の楽しさを

トヨタ東京自動車大学校理事・校長 杉山 泰成
全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

厳しさ増す整備学校の現状

専門学校を取り巻く環境の現状は、18歳人口が毎年2～3%コンスタントに減り、大学進学率が50%を超え、高卒で企業へ就職する者も増えている。私はこれを「三重苦」と言っている。整備学校はこの「三重苦」に「若者の車離れ」が加わって、どこの整備学校も定員割れを気にせざるを得ない状況にある。しかし、意気消沈していても何も起こらない。考えてみれば、明るい要素も数多くある。

サービスエンジニアへの期待

長寿命化と保有台数の増大もあり、整備需要はまだまだ増加しており、車両の高度技術化やコンプライアンスの徹底等で、質の高い整備士へのニーズは年々増大している。また、新車販売が前年を割る中、販売店は整備部門の強化に努めている。顧客との関係維持のためには、質の高いサービスや、サービスを通した顧客との信頼関係が一層重要になってきている。

将来の仕事の幅も拡大しており、販売店のセールスマネージャー、店長の4割以上がサービスエンジニア出身と言われており、大規模販売店の役員、社長、そして整備学校の校長としても活躍されている。

やるべきこと・やれること

若者の車離れの中、まず我々がすべきことは、車をもっと好きにさせるこ



とではないか。

車は我々の時代には憧れの的であった。しかし、生活必需品となった今、若者の価値観は大きく変化しており、ゲーム、音楽といったエンターテインメントや携帯電話等の楽しみが、経済的支出の対象となっている。

従って、整備技術を学ばせる前に、車の楽しさを若者に知らせてあげることが必要ではないだろうか。車は単に交通手段だけではなく、自分でドライブする、モータースポーツをする・見る、ドレスアップする等、多くの楽しみがある。

これらの楽しみを味わえば、車をもっと好きになる。そうすれば自ずと勉強もはかどる。加えて、20歳で就職すれば、車とは最低40年間の付き合い。好きでなければ続かない。まさしく、「好きこそものの上手なれ」である。

実学をしっかり教える

専門学校・大学校は、大学とは一線を画し、実学をしっかり教える場である。結果、就職率も高い。技術だけでなく、接客・応対も含めた人間性も重

要と言われ始めて久しい。

技術については、所定の教育時間の中で最新技術まで徹底理解させるのは並大抵のことではない。まず基礎をしっかり理解させることが重要である。特にハイブリッド車や将来の燃料電池車を想定した電気・電子制御関係がキーになるだろう。

人間性については、お客さまから信頼されるためにも、コミュニケーション能力だけでなく、時間厳守、約束を守るというような基本的なビジネスマナーの他、飲酒運転・喫煙マナー違反・違法改造等のコンプライアンスや社会貢献の重要性の理解も肝要であり、職場でも評価されるものと考ええる。

結びとして

サービスエンジニアへの期待は高まっているのだから、学生がもっと車を好きになり、実学をしっかり身に付けて社会に出れば、将来自動車業界の幅広い分野での“大活躍”が約束されている。すなわち、この活動を推進していけば、サービスエンジニアを希望する若者は確実に増えていくものと信じて疑わない。

CONTENTS

- 2面 腕振るえる大型車整備の世界
- 3面 我が校自慢
- 4・5面 留学生受け入れの実態
- 6面 協会トピックス
アイドルタイム
- 7面 活躍卒業生・地区通信
- 8面 私の教材活用・編集後記